

都道府県名	佐賀県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	鳥栖市立田代小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	2	3	2	3	2	2	17	26
児童数	91	79	83	76	101	75	6	511	

研究の概要

1. 研究主題

生きる力を支える確かな学力を育てる学習指導法の研究
 - 基本的な学習の心構えを身に付け
 基礎・基本の定着を図る算数科指導の工夫 -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年・算数科
 ・本校では、「生きる力」を支える「確かな学力」を以下のようにとらえる。

「確かな学力」

- 学ぼうとする力 = 学ぶ意欲・関心・態度（やる気）
- 学ぶ力 = 学び方
 - 問題解決の思考・判断力
 - 問題解決能力と自己表現力
- 学んだ力 = 各教科の基礎的・基本的な知識・技能
- 学んだことを生かす力 = 生活の中で実践する力

・児童の実態としては、自らの課題として主体的・積極的に考えたり、行動したり、さらに応用したりしようとすることは必ずしも十分とは言えず、算数の学力の個人差が大きい。

・このような学力観と児童の実態把握から学力の向上に関する研究に取り組むにあたって、算数科が最も適していると考えたため

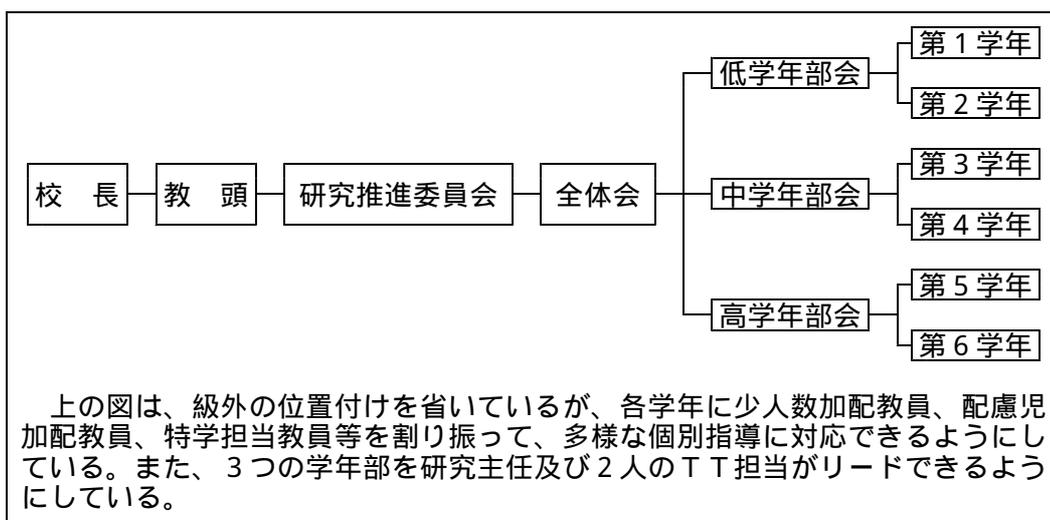
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ（第1年次） 基本的な学習の心構えを身に付け、基礎・基本の定着を図る算数科指導研究の見通し（仮説） 算数科における基礎・基本のとらえ方を見直し、児童の基本的な学習スタイルの確立を図り、それらを生かした指導法に関する研究実践を行えば基礎・基本の定着を図る算数科指導の工夫・改善の重点が明らかになるだろう。</p> <p>研究の内容・方法 基礎・基本のとらえ直し ・学習内容の系統性の面から ・育てるべき資質や能力の面から 基本的な学習スタイルの確立 ・自力解決 ・練り合い ・ノート等 児童の実態及び学習内容に応じた多様な実践 ・教材や教具の工夫、開発 ・少人数形態による指導の工夫 ・TT形態による指導の工夫</p>
--------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 練り合い（集団思考）の工夫 ・ 評価を生かした指導の工夫 ・ 習熟を図るための工夫 ・ 学習に対する意欲、興味、関心を高める工夫
--	---

平成 年度	<p>テーマ（第2年次） 基本的な学習の心構えを身に付け、基礎・基本の定着を図る算数科指導研究の見通し 前年度の研究を踏まえ、指導法の工夫・改善を重点化して行えば、基礎・基本の定着を図り、確かな学力を育てる算数科指導を具体化できるだろう。</p> <p>研究の内容・方法 基本的な学習スタイルの定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自力解決 ・ 練り合い ・ ノート等 <p>児童の実態及び学習内容に応じ重点化した指導法の工夫・改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教材や教具の工夫、開発 ・ 少人数形態による指導の確立 ・ T T形態による指導の確立 ・ 練り合い（集団思考）の充実 ・ 習熟を図るための工夫 ・ 学習に対する意欲、興味、関心を高める工夫
----------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

<p>本校は、今年度から算数科指導の研究に取り組み始めたところである。そこで、間口の広い実践を行い、何が大切なのか、何が問題なのか実践をとおして明らかにすることを目指してきた。成果に挙げた内容は、その結果明らかになったものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎・基本のとらえ直し ・ 学習内容の系統性の面から 活用できる既習事項との関連が明確になる。 児童のつまずきの原因が明確になる。 ・ 育てるべき資質や能力の面から 知識・技能だけでなく、考えの進め方や表現方法、さらには、みんなで考えるためのコミュニケーションスキルなども基礎・基本ととらえる。

基本的な学習スタイルの確立

- ・自力解決
学んだことを使って考えることの大切さを意識付けることができた。
 - ・練り合い
「わかい」（分かりやすく、かんたんで、いつでも使える）考えをみんなで作っていく大切さや楽しさに気付くようになった。
 - ・ノート等
「図、式、言葉」を合言葉に多様な表現を求めるようになった。
児童の実態及び学習内容に応じた多様な実践
 - ・教材や教具の工夫、開発
教科書の比較研究が最も有効な教材研究の方法であることが分かった。
 - ・少人数形態による指導の工夫
習熟度別の少人数編成をする場合、チェックテスト等による自己評価も利用することが有効であった。
 - ・T T形態による指導の工夫
問題解決型の授業において、児童のつぶやき等を取り上げ、ゆさぶることで考えを深めるT 2の役割の重要性が明らかになった。
 - ・練り合い（集団思考）の工夫
まとまった考えの発表の場ではなく、不十分な考えも積極的に取り上げて、みんなで新たな考えを作っていく場としてとらえることで、児童に積極性が出てきた。
児童の語り出しに留意し、つぶやきに耳を傾けることが豊かな集団思考のために重要であることが分かった。
 - ・評価を生かした指導の工夫
評価規準だけではなく、評価結果に応じて、どのような指導・支援を行うかを、事前に指導計画に位置付けておく必要があることが分かった。
 - ・習熟を図るための工夫
単元内の補充・深化指導の重要性を再認識した。
学習に対する意欲、興味、関心を高める工夫
 - ・意欲を喚起させ、必要感のある問題場面の設定
児童の問いを生み、既習事項を関連付けられることが必要であることが分かった。
 - ・生活に活用できる場面の設定
実際に教室を出て活用する等の場面を設定すると意欲が向上し、達成感や成就感も深まる。
どの単元も全て生活に直結させることは逆効果であることが分かった。
 - ・達成感、成就感を味わわせるためのワークシートの工夫等
特に、習熟場面では目標や評価規準（児童にとってのゴール）が明らかになっていることが有効であった。
- 本校では、学力向上の状況を次年度の学力検査で把握するようにしている。したがって、ここに挙げた成果は、前提条件テスト・事前テスト及び事後テスト、単元中の形成的評価やチェックテスト及び児童のふりかえりカード、そして教師間の情報交換に基づいて考察した。

2. 今後の課題

手だての重点化

次年度は、有効性が明らかになった手だての確立・定着を図りながら、特に大切なものを洗い出し、重点化した研究に取り組みたい。また、先進校で整理されてきたT Tや少人数指導をする教師のスキル等に着目し、積極的に取り入れていきたい。

児童の実態把握の工夫

情意面を含めた児童の実態把握を継続的・蓄積的に行っていく工夫に取り組みたい。

系統的な教材研究の充実

児童のレディネスと教材に関する考察、発展的な内容に関する考察をさらに深めたい。

研究推進体制の工夫

各学年は充実した研究ができたが、もっと全校としての研究組織が機能する

ようにしたい。時間の確保も工夫が必要である。
 朝の時間等の活用
 個に応じた習熟の場として朝の時間等を活用する方法を探っていきたい。
 場の工夫
 本校にはオープンスペース等もなく、多様な学習形態を非常に取りにくい。
 少しでも施設改善を図り、工夫していきたい。
 中学校との連携

学力等把握のための学校としての取組

定期的な学力標準検査の実施
 学習状況の変容を捉え、新しい各学年の重点とすべき（領域、単元、観点）を明らかにするために年度初め（４～５月）に学力標準検査を実施する。算数科の場合、内容領域による学力差が大きいことを考え、NRT（領域別）検査を採用している。
 その他
 重点単元については、前提条件テスト・事前テスト及び事後テスト、単元中の形成的評価やチェックテスト及び児童のふりかえりカード等に今後も取り組んでいきたい。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- (1) 開催実績
 公開授業及び研究会
 ・平成16年1月28日（水）13：30～16：30
 ・鳥栖市立田代小学校
 ・主として小学校教職員対象
 ・教材研究及びTT指導についての提案及び協議
- (2) 開催予定（平成16年度）
 公開授業及び研究会
 ・2～3回計画（日時未定）
 ・鳥栖市立田代小学校
 ・主として小・中学校教職員対象
 ・教材研究、TT指導、少人数指導についての提案及び協議
- (3) HP作成等の実績
 ・<http://www.saga-ed.go.jp/school/edq11303/index.html>
- (4) 研究成果普及のための活動実績予定
 ・県内数校への校内研究支援
 ・県算数部会主催研究会への支援

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 TTによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無